

鵜川・ピリカ・プロジェクト

～美しい川をめざして～

「ピリカ」とは、アイヌ語で「美しい、良い」などを意味する言葉です

第10回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。

～美しい川をめざして～

平成20年11月18日(火) 18:00より、第10回「鵜川・ピリカ・プロジェクト」が開催されました。美しい川宣言(案)では、「防災」「環境」「教育文化」「観光」毎に目標とアクションプログラムを立てることとなっており、これまでの会議の成果を基に事務局が作成した目標(案)について、意見交換を行いました。10名の委員が出席しました。

意見交換

1. 観光について

- * 「ありのままの鵜川こそ観光資源」と記載があるが、「ありのまま」の言葉遣いがいいのか疑問である。
- * すごくおいしい野菜や米があるということも、食という部分で観光資源につながるのではないかな?
- * むかわはかつて米地帯として栄えた町で、今は季節の折々に越冬レタス、ハウレンソウ、トマト、長芋、穂別メロンがある。
- * 手を加えないで今あるものを守るべきか、価値をさらに高めるために、手を加えるべきか議論をすべきである。
- * むかわ町全体の観光の議論ではなく、川づくりをうまく生かして観光に役立てる視点で目標を考えたほうがいい。
- * 1級河川鵜川を中心にした観光資源という視点で進めてまいりたい。
- * 高齢化社会なので、高齢者を巻き込んで知恵を引き出していくことも必要である。
- * 誰がやっていくのか? 地域の方々、教育機関、愛護団体が一体となってやっていくなど記載があると、具体的な方針となる。
- * どのような推進体制を作っていくか? 全国、道内に積極的にPRしていくのか? 世界に向けて発信していくのか? 進め方の指針があるとよい。
- * 鵜川高校の野球が強くなり全道的に注目を浴びる時期。鵜川のことを調べるためインターネットで検索する人も多いのでホームページは非常に効果があると思う。
- * 観光となっているからには「シシャモ」を入れたほうがいい。

2. 教育・文化について

- * ジャンルにとらわれず、どのような方法でやっていくか? どういうことを伸ばしていくか? という視点で考えたほうがいい。
- * 子供たちをターゲットにするのはよいこと。これからの人たちが鵜川をどうしていくのか? この視点が一番大事。
- * 川育を継続的に行い、成果を上げるためには、地元指導者の養成とプログラム作成、教育局との連携が必要。



開催の様子



- * (活動をサポートする人) サポート隊が必要である。
- * 発達段階に応じた教材となる資料や、どこへ行けば安全に子供たちを川で楽しませることが出来るかというデータなどを提供して欲しい。
- * アイヌ文化を地域の中だけでなく、外に発信して、すばらしさをたくさんの人に知ってもらい取組みがあってもいい。
- * アイヌ「精神」にこだわらず、「道具」、「料理」などもあると思う。
- * アイヌ文化は自然を愛し、自然を大事にしていくので、「自然と人間は一体」と入れたらよい。
- * 郷土教材や副読本などがあると、小さい時から意識を作っていくことができる。長い期間をかけて培っていかねばならない。
- * イベント時に講師はいろいろな教材を配布しているが、持続的にPRされていないので、今後広く配布する努力をしたい。

3. 環境について

- * 上流の山の木が切られており、その影響で水位低下や濁りの長期化などが起きているのではないかと？
- * 行政区だけでなく、民間区域も含めた広域的な植樹活動が必要。
- * 自然の状態を保全していくということであるが、防災の観点から川を改変し、新しい景観を作らざるを得ない場合がある。景観についても、人も意識的に保全するということを加えた方がいい。
- * 自然のままに保全という言葉だけが独り歩きしてしまう危険性があるので、配慮と工夫が必要である。
- * ふるさとの川を実感できるとか、子供や恋人、お年寄りが手と手をつないで歩けるような川のほうが、想いが端的に示されている言葉だと思う。
- * 独自の言葉遣いや皆さんの言葉を選んで、誰もがわかる宣言にしていくことが必要である。
- * 「シシャモとサケのふるさとの川を実感できる」このような言葉もいいと思う。
- * 「子供、恋人、お年寄りが手と手をつないで歩けるような川」を具体的な表現にしたい。癒しと安全のどちらが主なのか？

4. 防災について

- * 行政は知らせる努力、住民は知る努力をといった、両方で努力をしていきたいと思いますという結論になった方がいい。
- * 過去に起きていない災害も起こることを意識した書き方にしたい。
- * 災害が起きた場合、行政だけでは対応しきれない。住民とともに対応していく必要がある。
- * 河川工事では環境にできるだけ負荷をかけない方法も出てきており、共存することは可能であると考えている。
- * 「人づくり」ではなく、「地域づくり」ではないか？地域としてどう体制をつくっていくか。
- * 川の宣言では川づくり方針と防災対策が大事なことで、あとは補完的なことであるため、メリハリをつけて書いていくことが必要。
- * 開拓の歴史も魅力的であり観光資源になる。また、地域で伝えていくものもあるのではないかと。



開催の様子



資料が提示されている様子